

令和8年1月26日

各位

国立大学法人岩手大学 獣医学部
附属産業動物臨床・疾病制御教育研究センター
センター長 高橋 透

獣医学部附属産業動物臨床・疾病制御教育研究センター臨床実習部門
特任教員（教授または准教授）候補者の公募について

謹啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

本学では社会や地域からのニーズが高い産業動物獣医師人材（地方創生人材）の育成強化、家畜伝染病制御策の普及促進、産業動物獣医師の卒後教育の充実等を担う組織として、獣医学部附属産業動物臨床・疾病制御教育研究センターを運営しております。この度、同センター臨床実習部門を担当する特任教員（教授または准教授）候補者を下記により公募致します。つきましては、貴機関に適当な候補者がおられましたなら、応募くださるよう周知方ご高配を賜りたくお願い申し上げます。なお、貴機関以外の方でも適任と思われる方がおられましたら、ご推挙いただければ幸甚に存じます。 謹白

記

1. 公募する教員の職名および人数

附属産業動物臨床・疾病制御教育研究センター臨床実習部門
特任教員または特任准教授（任期付契約職員）1名

2. 勤務先

〒020-8550 岩手県盛岡市上田3-18-8 岩手大学獣医学部

3. 分野の概要および職務の内容

同センター臨床実習部門は特任教員（特任教員または准教授）1名と、兼任教授及び准教授（共に共同獣医学科兼任）各1名、特任助教2名からなり、臨床教育の実践の場である産業動物参加型臨床実習の向上・高度化を通して次世代を担う産業動物獣医師の育成促進を目指します。

今回の公募は産業動物総合診療にもとづく総合参加型臨床実習を円滑に遂行するために、実習プログラムの開発、企画、運営、臨床指導教授（現役産業動物臨床獣医師）

や産官学民の諸機関との連絡・調整、実習用患畜や診療フィールドの選択、症例検討会の主宰、臨床実習教育コンテンツの作成等を担当する特任教員を充足するものです。附属動物病院の同分野の教員と連携して附属動物病院の診療と運営に携わるとともに、共同獣医学科、獣医学部附属動物医学食品安全教育研究センター、大学院獣医学研究科共同獣医学専攻の教員と連携して、獣医学部の獣医学教育の一部を担当していただきます。

4. 応募条件

今回の公募にあたっては、次の諸項を満たす人物が望まれます。

- 1) 日本国の獣医師の資格ならびに博士の学位を有する方。
- 2) 人格・識見に優れ、獣医学教育の充実、発展に意欲的に取り組める方。
- 3) 産業動物臨床分野において、特に牛の診療に関する専門的な知識・技術および研究業績を有する方。
- 4) 産業動物臨床分野、特に牛の臨床について、10年以上の診療経験を有する方。
- 5) 産業動物参加型臨床実習（学生の往診随行を含む）ならびに産業動物獣医師の卒後教育等を担当できる方。
- 6) 岩手大学が行う地域貢献に意欲のある方。

なお、岩手大学は男女共同参画を推進しています。業績および資格等に係る評価が同等と認められる場合には、男女共同参画社会基本法の趣旨に則り、女性を優先的に採用します。両性手当制度や子育て・介護中の研究者に対する支援策等については岩手大学ホームページ（www.iwate-u.ac.jp/gender/）をご覧ください。

5. 採用条件

- 1) 採用予定日 令和8年4月1日（水）
- 2) 雇用期間 令和8年4月1日から令和9年3月31日まで
- 3) 給与やその他勤務条件 「国立大学法人岩手大学契約職員就業規則」による
専門業務型裁量労働制
休日：土日祝日、年末年始
給与・手当：本学規定に基づき支給
社会保険等：雇用保険、労災保険、文部科学省共済組合に加入

6. 応募書類

- 1) 履歴書 1部（写真貼付、署名、捺印のあるもの。電子メールアドレスも記載してください。）
- 2) 研究業績目録 1部（様式は別紙または岩手大学ホームページを参照ください。）

- 3) 診療実績記録 これまでに経験してきた産業動物診療について、その内容と期間を具体的に記述したもの。
- 4) 主要論文別刷 10編以内（コピー可）。
- 5) 抱負 1部（1,000字程度）
- 6) 推薦者がある場合は推薦状、あるいは人物紹介が可能な方の連絡先。
(様式自由)
- 7) 提出期限 令和8年2月6日（金）17時必着

7. 選考およびその結果の通知

選考過程において応募者の来訪を求める、面接などを実施することがあります。
その際の旅費等の経費は自己負担になります。面接試験の実施および選考結果は応募者に通知します

8. 応募書類提出および問い合わせ先

応募書類は、郵送およびインターネット（電子メール）により受け付けます。なお、応募書類は原則として返却いたしません。

郵送の場合

書面を郵送する場合は、教員応募書類在中と朱書きし、簡易書留又は配達記録の残る方法でお送りください。

インターネット（電子メール）の場合

応募書類を、PDF形式のファイルでメールに添付（10MB以内）して応募先アドレスにお送りください。なお、メールの件名は「産業動物臨床・疾病制御教育研究センター特任教員応募」としてください。書類受領後3日以内にメール返信を致しますので、返信がない場合はお問い合わせください。

応募書類送付先

〒020-8550

岩手県盛岡市上田三丁目18-8 岩手大学獣医学部

附属産業動物臨床・疾病制御教育研究センター

センター長 高橋 透

Tel & Fax: 019-621-6277

e-mail : tatoru@iuate-u.ac.jp

以上

研究業績（著書・学術論文等）

A. 著書・訳書

「研究業績」の作成について

研究業績は、A4判の用紙に A.著書・訳書、B.学位論文、C.総説・論説、D.原著論文 (a)学術雑誌^{*1}、(b)紀要^{*2}、(c)プロシーディングス、E.その他^{*3}、F.報告書・事業報告書等^{*4}、G.特許・設計等、H.国際学会発表^{*5}、I.国内学会発表^{*5}の順に、下記の例を参考にして作成してください。例えば総説・論説がない場合は、C.原著論文のように繰り上げてください。マージンは左右上下約3cmに設定し、1行35～40字で40行程度（日本文の場合フォントのサイズは10.5～12程度）にしてください。

*1：学会誌、国際誌等を年代順に記載する。

*2：試験場報告、研究所報告等を含む。

*3：商業雑誌、資料等を記載する。

*4：調査報告書、科学研究費報告書、事業報告書等を記載する。

*5：最近5カ年について記載する。（教授選考の場合、I.国内学会発表は不要）

*6：著者名にアンダーラインを付け、コレスポンディングオーサーあるいは筆頭著者トイコールコントリビューションの場合は二重のアンダーラインを付ける。ただし論文にその記載がある場合に限る。

*7：英文で著者名を記載する場合は、下記のようとする。

1. Morioka, J., Iwate, I. and Akita, N. (1986)

*8：学名にはアンダーラインをつけるか、またはイタリックで記載する。

*9：論文番号は全角、英数字は半角にする。また、巻数はボールド（太字）とする。

*10：Journalは略記する。

*11：発行又は発表予定として記載可能なのは in press か accepted のみとする。

〈記載例〉

研究業績 (著書・学術論文等)

A. 著書・訳書

1. 岩手一郎 (単著) (1990)

農学について. ○○出版社, 東京, 100p.

2. 岩手一郎 (分担執筆) (1991)

北上山地における畜産業, 「岩手の農業」 (大学太郎, 学部一郎編), △△堂, 盛岡, pp. 10-20.

3. 岩手一郎 (分担翻訳) (1992)

トウモロコシ, 「アメリカの農業」 (A. B. Carter 著, 大学太郎監訳), ◇◇社, 東京,

pp. 20-30.

4. Iwate, I. and Morioka, J. (分担執筆) (1993)
Agriculture in Japan, "Agricultural Sciences" (Eds. : D. E. F. Green and H. I. James), Bio Press, London, pp. 20-30.

B. 学位論文

1. 岩手一郎 (1980)
XYZに関する研究. [◇◇学修士または修士 (◇◇学) ○○大学]
2. 岩手一郎 (1983)
ABCに関する研究. [◇◇学博士または博士 (◇◇学) ○○大学]

C. 総説・論説

1. 岩手一郎 (1994)
岩手における野生動物の分布. 岩手の自然 No.3 : 1-5.
2. 岩手一郎, 盛岡次郎 (1995)
岩手山の植物分布. 岩手植物誌 15 : 215-220.

D. 原著論文

(a) 学術雑誌

1. 岩手一郎 (1985)
岩手の野生動物に関する研究. 日動学誌 5 : 15-20.
2. Morioka, J., Iwate, I. and Akita, N. (1986)
Distribution of wild animals in Iwate Prefecture. Jpn. J. Anim. Sci. 20 : 100-105.
3. Iwate, I. (1990)
Calcium metabolism in laying Japanese quail (*Coturnix coturnix japonica*). Jpn. Avian Physiol. 25 : 15-20.

(b) 紀要

1. 岩手一郎 (1985)
トウホクヤマネズミの生態について. 岩手大農報 17 : 30-40.

(c) プロシーディングス

1. Iwate, I., Morioka, J. and Akita, N. (1995)
Mode of life of Japanese macaques in northern Japan. Proc. 5th Int. Cong. of Wild Animals, Berlin, pp. 101-102.

E. その他

1. 盛岡次郎, 岩手一郎 (1990)

北上山系におけるニホンカモシカの生態調査. 野生動物 No.125 : pp. 35-45.

F. 報告書・事業報告書等

1. 盛岡次郎, 岩手一郎 (1993)

イヌワシのP C B汚染. 自然動物調査報告 (△△県) , pp. 10-11.

G. 特許・設計等

1. 盛岡次郎, 岩手一郎 (1993)

イヌワシ捕獲装置 特許第 1234567 号

H. 国際学会発表 (最近 5 か年)

1. Morioka, J. and Iwate, I. (1996)

Ecological study of wild animals in Japan. 5th Int. Anim. Ecol., New York.

I. 国内学会発表 (最近 5 か年)

1. 岩手一郎, 盛岡次郎 (1997)

岩手の野生動物. 第 100 回日本野生動物学会講演要旨 : 25-26.